

13. 感染症

- 1) 性感染症
- 2) HPV 感染症
- 3) 感染症合併妊娠

I. 性感染症

性感染症 (sexually transmitted disease : STD) は性行為によって感染する病気でオーラルセックスでも感染する。

近年の STD の疫学的特徴は？

- 1) 増加傾向
- 2) 低年齢化
- 3) 女性優位

性感染症に対して知識の少ない若年者の興味本位な性行為が問題！

発症数の多い STD は？

- 1) 性器クラミジア感染症
- 2) 性器ヘルペス感染症
- 3) 尖圭コンジローマ
- 4) 淋菌感染症

(2001年 感染症動向調査)

その他診療上重要な感染症として、性器カンジダ症とトリコモナス膣炎がある。

外来で問診するときの注意点

性感染症の検査を自ら申し出る患者さんはあまり多くない。STD を予想させる主訴を訴えたときは、STD 感染の原因となりそうなエピソードをさりげなく聞くことが大事。

STD の多くは臨床所見で診断可能

研修コーナー

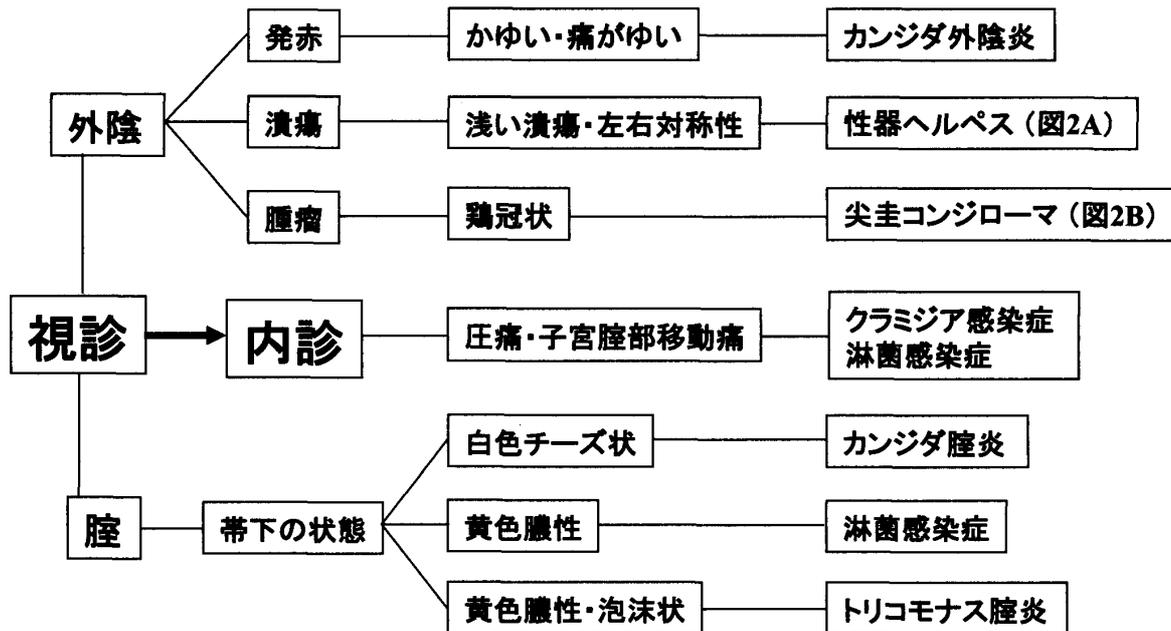
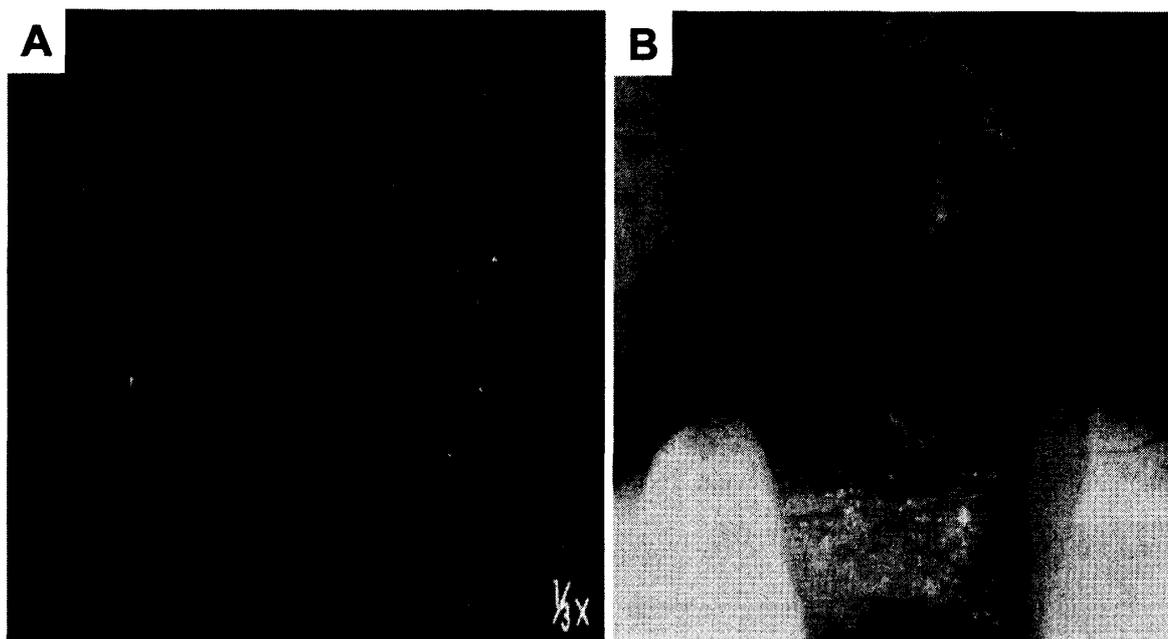


図1 初診時所見と、考えられる性感染症

外陰ヘルペス

尖圭コンジローマ



(新女性医学大系10 女性と感染症から転載)

(産婦人科医会 研修ノート No69 感染とパートナーシップから転載)

図2 特徴的な所見により診断可能な疾患

検査と治療はどうしたらよいか？

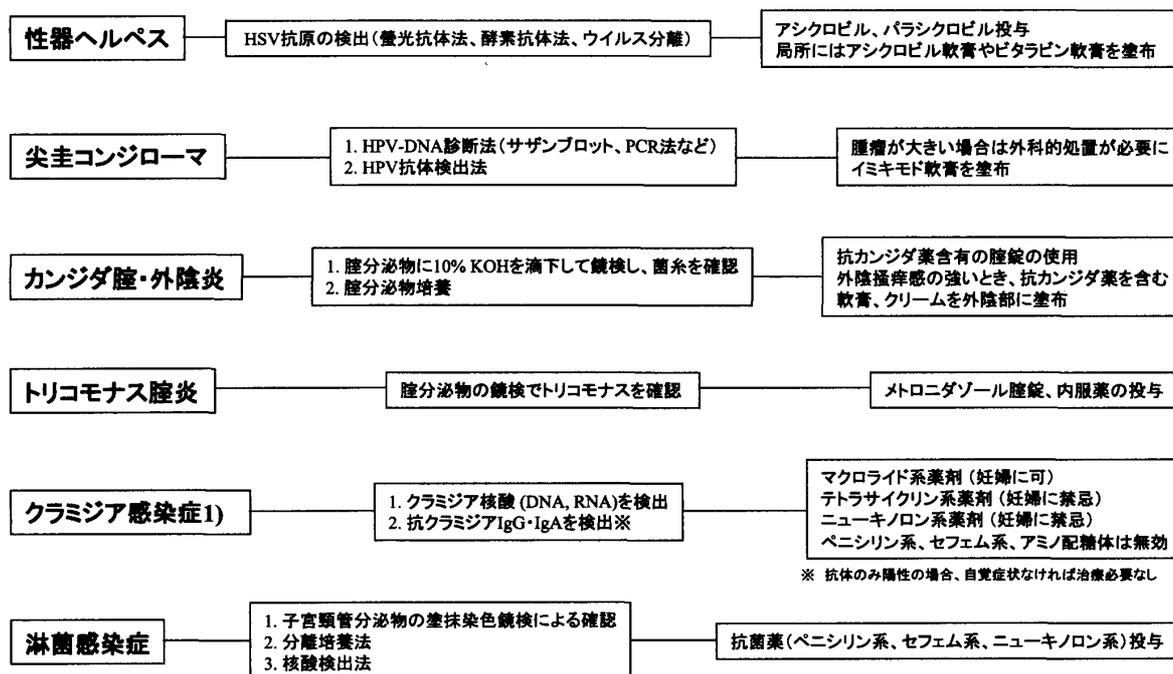


図3 STDの検査と治療

1) 性器クラミジア感染症のポイント

【ポイント】症状のない時から確実に診断，治療することが大切

1. 未婚女性の場合，不妊症や子宮外妊娠を防ぐために積極的に検査が必要。
2. 子宮卵管造影検査を行う前に，頸管内にクラミジアの存在を否定することも大事。

参考：アメリカの対応

米国疾病管理予防センターガイドラインでは，25歳以下の女性が来院したら，全例，抗原検査か核酸増幅法を行う，としている。

日本では検査対象の明確な基準がないが，患者を見落とさないためにはこのくらい必要か？，と考えられる。

II. HPV 感染症

HPV 感染症は，HPV (human papillomavirus) 感染によるものであり，イボができたり，子宮頸がんの原因となる場合がある。

研修コーナー

HPV (human papillomavirus) とは？

1. パポウイルス科に属する環状 DNA ウイルス(図1)
2. ヒトにだけ感染するウイルス
3. 子宮頸がんや尖圭コンジローマの原因ウイルス

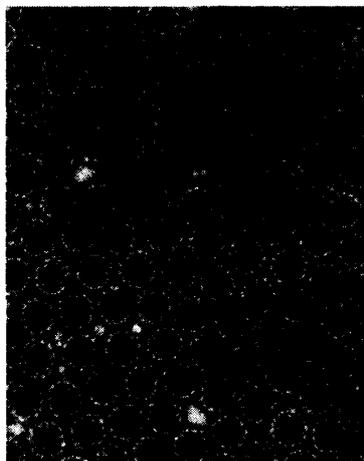


図1 HPV 粒子

尖圭コンジローマと子宮頸癌になる HPV は同じか？

HPV には100種類以上のタイプがある。すべてが癌の原因にはならない。尖圭コンジローマなど、良性のイボの原因になるのは、6や11型であり、癌の原因になるものとして16, 18型がよく知られている(表1)。

表1 HPV の遺伝子型と悪性度

悪性度	遺伝子型
低リスク	6, 11, 40, 42, 43, 44, 54, 61, 70, 72, 81
高リスク	16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66, 68, 73, 82

日本では16, 18, 52, 58型が多い

HPV の感染率はどのくらいか？

健常女性の10%以上に HPV が検出される。

年代別にみると

10代：感染率は44%

20代前半：感染率は28%

30代以降：感染率は約10%

特に若年者の感染が高率。

子宮頸癌も性感染症か？

女性の1割以上は常に HPV に感染している。多くの人が一生のうち一度は感染すると考えられている。

HPV はセックスにより感染するが、感染イコール子宮頸癌ではない。

研修コーナー

子宮頸癌を性感染症と考えるのは間違いである。

感染したら必ずがんになるか？

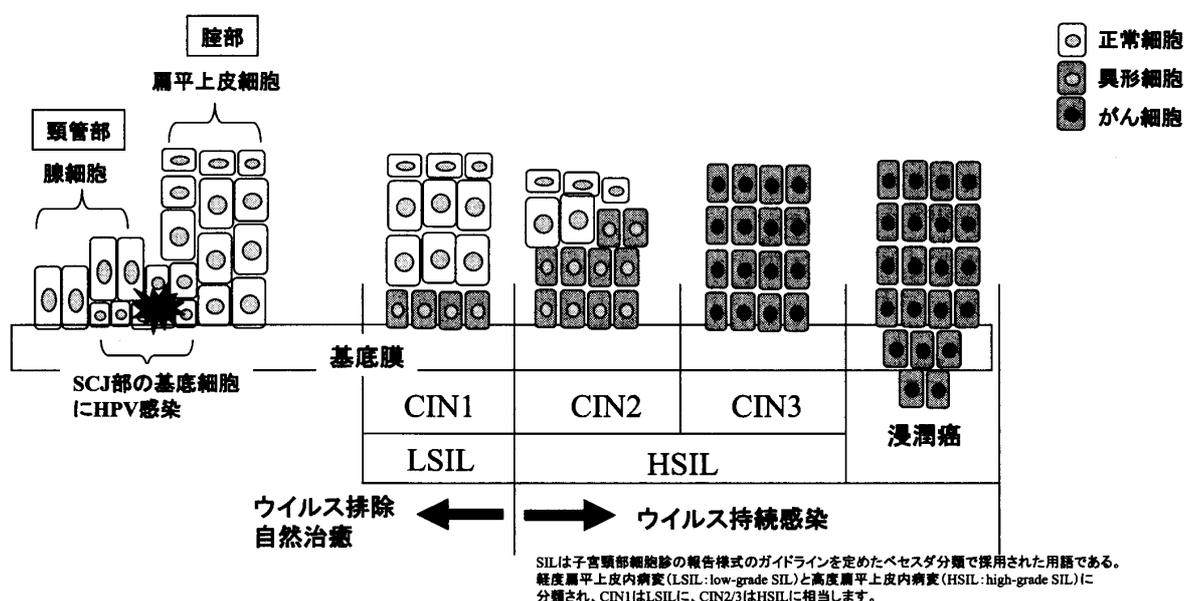


図2 HPV感染と細胞異形

HPVが感染しても、多くの場合は宿主の免疫機構により排除される。しかし、一部は前がん病変である異型上皮に進展する。それでも軽度異型性(CIN1)の場合は、2年以内に半数が正常化する。CIN1から、2年以内に高度異形成/上皮内癌(CIN3)になるのは約2%で、中等度異型性(CIN2)は2年以内に16%がCIN3以上に進行する。CIN1とCIN2にはその後の進展に大きな違いがある。浸潤癌は、多くの場合HPV感染から10年以上経過して発生する。

HPV ワクチンについて

ワクチンは使用目的により、治療的ワクチンと予防的ワクチンの2種類あるが、HPVワクチンは予防的ワクチンである。子宮頸癌では99%以上でHPVが検出されるが、16型と18型のハイリスクHPVが約70%を占める。HPVワクチンには、16型と18型をターゲットにした2価ワクチン、さらに、この2つのハイリスクHPVに加え尖圭コンジローマの原因となる6型や11型もターゲットにした4価ワクチンがある。日本では2価ワクチン(サーバリックス®)が使用できる。

ワクチンの対象や方法は？

接種対象：女性は10～14歳(sex debut前を推奨)

接種方法：1回0.5mL 筋肉注射

接種回数：初回・1カ月後・6カ月後の3回

ワクチンの予防効果は？

サーバリックスはHPV16/18型関連の病変予防は100%と報告されている。

ワクチン接種したらがん検診は行かなくていいのか？

現在のワクチンはHPV16/18型以外の型には無効である。そのため子宮頸がん検診は通常どおり受ける必要がある。

Ⅲ. 感染症合併妊娠

細菌性陰症(Bacterial vaginosis : BV)とは？

乳酸桿菌などの正常陰内細菌叢が、他の菌種に置きかわること。帯下の増加や悪臭が特徴で、絨毛膜羊膜炎や流早産の原因になる。

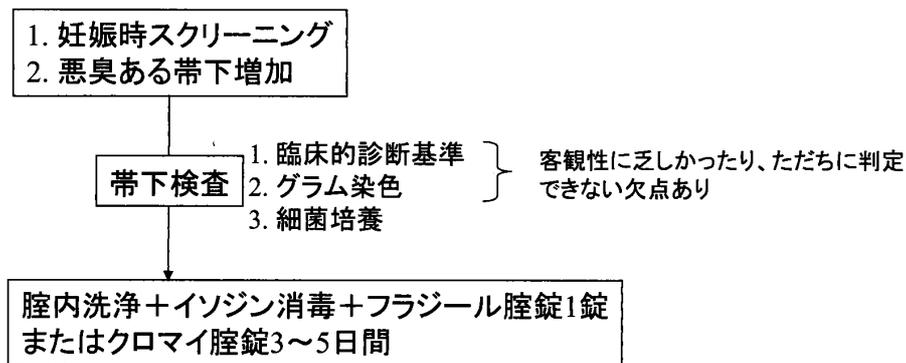


図1 細菌性陰症管理フローチャート

妊娠初期から妊娠15週までに治療するのが望ましいとされている。クロマイやフラジール錠は保険適応はない。BV治療により早産を40%まで減らすともいわれるが、まだ確たる結論ではない。

母子感染の原因となる病原体は？

妊婦の中には、妊娠中に感染症に罹患する場合もある。感染症の原因となる病原体の中には、妊婦だけでなく、胎児、出生児に感染するものもある。病原体の種類、感染時期によって、児に重篤な後遺症を残す場合がある。

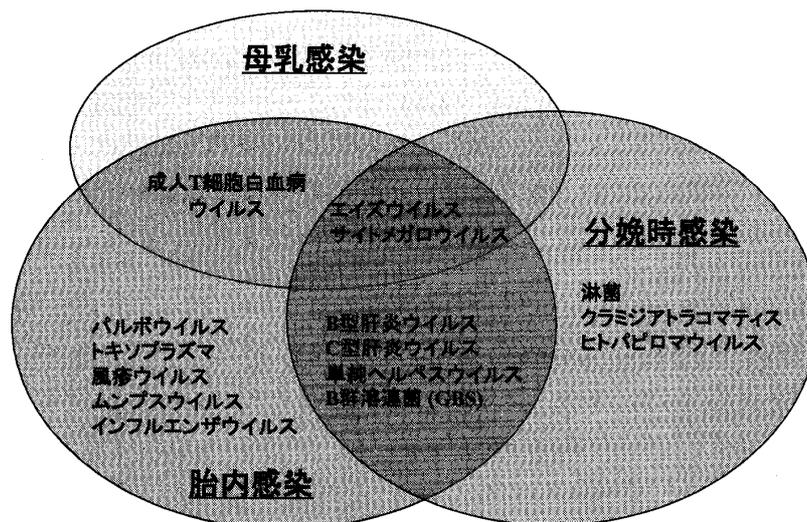


図2 母児感染経路と主な病原体

病原体による児への影響は？

表1 各病原体と児への主な影響

風疹ウイルス	: 先天性風疹症候群
サイトメガロウイルス	: 巨細胞封入体症、神経学的後遺症
単純ヘルペス	: 新生児ヘルペス
水痘・帯状疱疹ウイルス	: 先天性水痘症候群
B型肝炎ウイルス	: 新生児・乳児肝炎、キャリア化
C型肝炎ウイルス	: 新生児・乳児肝炎、キャリア化
パルボウイルス	: 子宮内胎児死亡、IUGR
成人T細胞白血病ウイルス	: キャリア化
麻疹ウイルス	: 子宮内胎児死亡
ムンプスウイルス	: 子宮内胎児死亡
インフルエンザウイルス	: 流産
クラミジア・トラコマティス	: 肺炎、結膜炎
梅毒トレポネーマ	: 早発性・遅発性梅毒
B群溶連菌	: 敗血症、髄膜炎
トキソプラズマ	: 水頭症、網脈絡膜炎

(ゴシックは胎内感染によるもの)

胎内感染を防ぐ方法はあるか？

胎内感染の多くは、残念ながら完全に感染の予防は不可能。
感染しないように注意することが肝心。

母体感染が起ったら予防策なし

風疹ウイルス、麻疹ウイルス、インフルエンザウイルス、パルボウイルス、ムンプスウイルス、サイトメガロウイルス

予防策あり

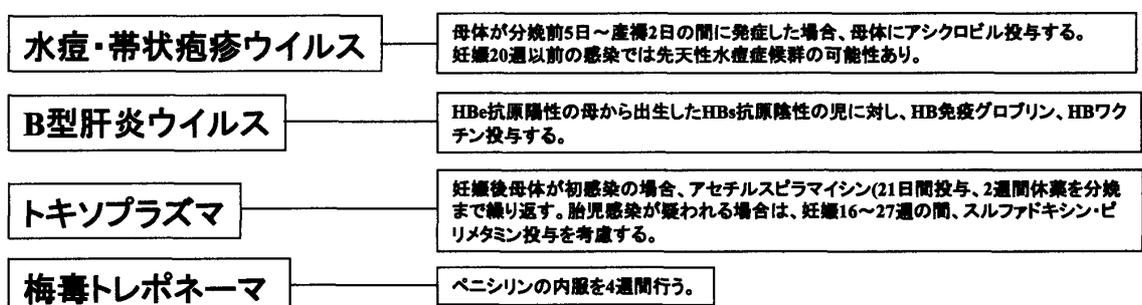


図3 胎内感染となる病原体と予防策

病原体が産道感染の場合、自然分娩は無理か？

分娩時に産道を介しての感染症では、新生児への産道感染を防ぐために、分娩前に母体治療を必要

研修コーナー

とするものや(図3), 分娩方法を変更しなければならないもの(図5)がある.

B 群溶連菌 (group B streptococcus : GBS) とは ?

GBS は膣の常在菌の1つで, 妊婦の保菌率は10~20%である. 保菌妊婦から出生した児が新生児 GBS 感染症を発生する率は0.1%以下であるが, 発症後の死亡率は25%と高い.

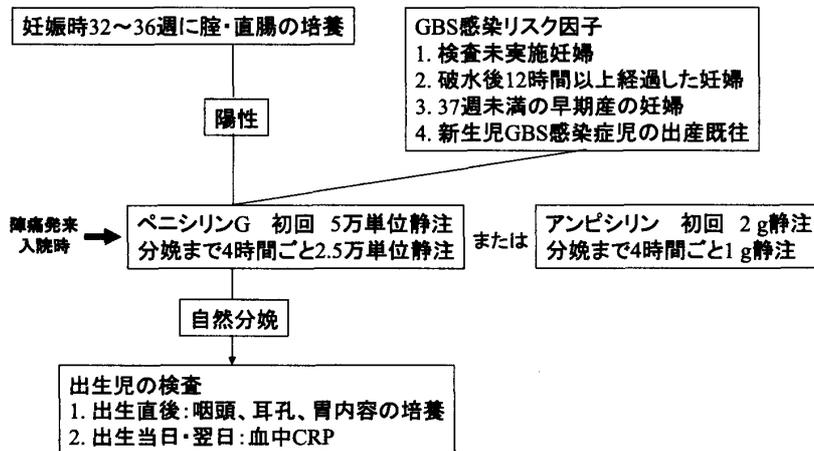


図4 GBS 感染症の入院後フローチャート

単純ヘルペス感染は経膣分娩可能か ?

分娩時に母体に性器ヘルペスが存在すると, 母体初感染では約50%に新生児ヘルペスが発症する. 新生児ヘルペスの重篤なものは死亡率が30%である. また, 重篤な神経障害を残す場合もある.

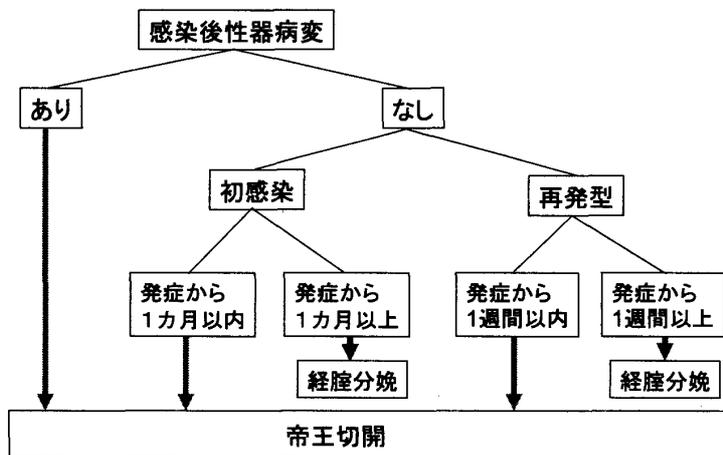


図5 ヘルペス感染症の分娩時取り扱い